

2023年10月1日 (第1主日)



第一礼拝次第

メッセージ：渡真利彦文牧師

プレイズ：郭永東牧師

前奏
頌栄
主の祈り
プレイズ
聖書朗読
祈禱
ス^パシャル
賛美
メッセージ
祈禱
賛美
聖餐
献金
報告
頌栄
祝禱

540

「さあ賛美しよう」

「主の御言葉待ち望む」

ヨハネによる福音書4：1～6

(新約聖書 p168)

モンゴルからの挨拶

ABWU 大会の証

7

『おわり』に向かって」

234A

新生672b

会衆
会衆
会衆
司会
司会
会衆
会衆
司会
司会
会衆
牧師

<巻頭言>

「わたしの計画、私の目標」

牧師 渡真利彦文

「わたしはあなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」(エレミヤ 29:11)

まず、この神の計画の約束に基づいて、たとえ私たちの将来に、災いと見えたり思えたりするようなどんなことがあっても、神は私たちに災いを与えるようなことは無いと信じてかかることが大切でしょう。結果的には、必ず「平安と希望」とをもたらずのが神のご計画だと記されているのです。

あのロビンソン・クルーソーは、舟が難破し孤島に一人放り出された時、生還する日まで何とか生き続けるために、自分の気持ちを励ます手だてとして、日記を記すことを思いつきます。彼は今置かれている絶望的な状況、災いと思える「悪いこと」と、別の視点から見た「良いこと」とを、まるで「借方と貸方との計算のように公平に書いてみた」というのです。そして「どんなに悪い境遇の中にも、慰めとなることがずいぶんある」という結論に達するようになったと書いています。

私たちの場合、単に視点を変えするという以上に、私たちを愛してやまない神の愛は、「災い」と見えることも含めて、「万事が益となるように共に働く」(ローマ 8:28) と信じることができるはずでです。そういう意味で、私たちの将来はいつも明るいと言っても良いのではないのでしょうか。

♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～

第二礼拝次第

メッセージ：郭永東牧師

司会：伊禮信義先生

聖書：ヨナ書1：1～16 (旧約聖書 p1445)

メッセージ：「人の愛と神の愛」

プレイズ：「鹿のように」「御手の中で」

賛美：新生586 新生520

♪～♪～♪～♪～♪～♪～♪～

ファミリー礼拝

メッセージ：渡真利彦文牧師

司会：渡真利千佳子姉

聖書：ルカ4：16～30

メッセージ：「神が遣わされた救い主イエス」